

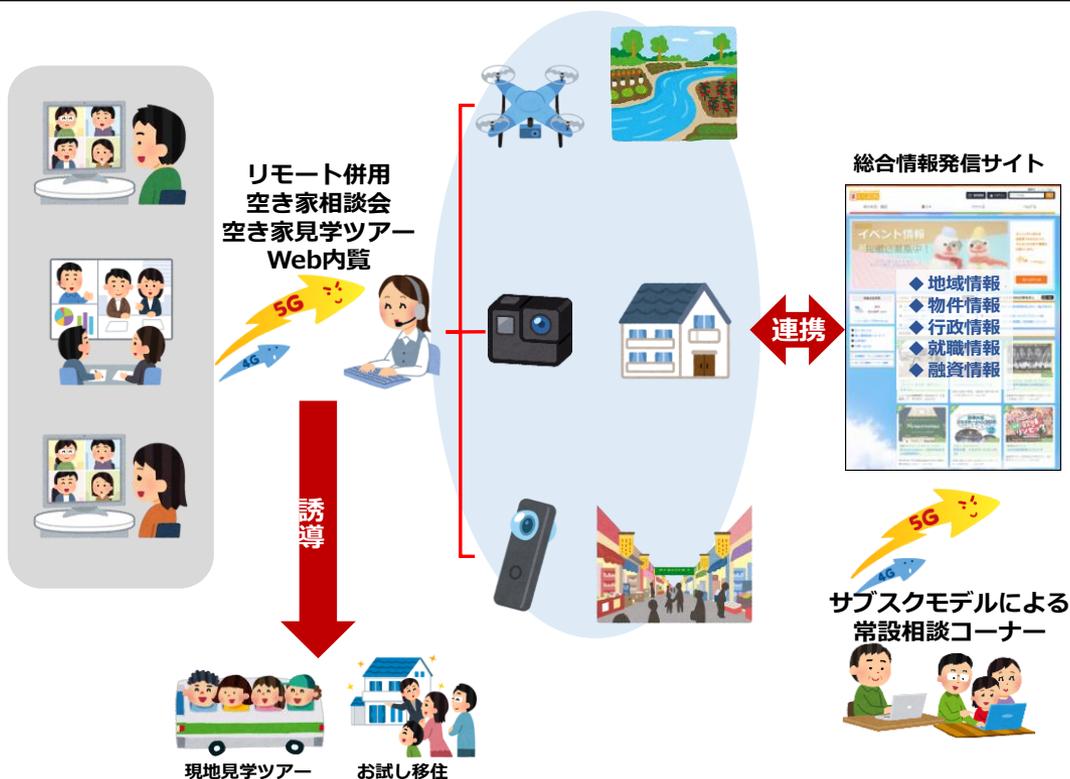
【取組の背景と目的】

- 空き家対策として有効な空き家相談会や空き家見学ツアーであるが、①広報の方法、②主催者側の準備・運営等、③参加者の参加しやすさ(距離、タイミング)等の問題を解決することにより対象者が拡大し、効果を高めることができる。
- 自治体や専門家と連携し、ITとサブスクリプションを活用した空き家相談会・空き家見学ツアーで、相談者や参加者を現地開催の相談会、見学ツアーやお試し移住に誘導することで、さらなる空き家流通の活性化につなげることができる。

【取組内容の概要】

空き家相談会、空き家見学ツアーに共通する課題である「距離とタイミングの問題」を解決するために、福島市および連携協定団体と連携し下記の取り組みを行う

- (1) ITを併用した空き家相談会、空き家ツアー(Web内覧含む)を開催するための要件の検討
- (2) 総合情報発信サイトと連携した遠隔参加システムの仕様検討・プロトタイプ開発
- (3) 福島市、連携協定と連携したリモート併用空き家相談会・空き家見学ツアーの試行
- (4) 仕組みのマニュアル化およびお試し移住やふるさと納税等の自治体の既存の施策との連携について整理



基本的な考え方：人と空き家の間にある「距離」の改善



◆物理的「距離」

- ・所有者と空き家
- ・購入候補者（関係人口）と自治体&空き家

◆心理的「距離」

- ・アクションを起こすのが面倒
- ・営業をかけられるのが不安
- ・そもそも興味がない（知らない）

ITを併用した空き家相談会の検討

10月31日に開催された福島市空き家合同相談会において、
遠隔空き家相談を試行



環境：ノートPC、外付けディスプレイ、ポケットwifi、
Zoom、外付けWebカメラ、会議用マイクスピーカー

ITを併用した空き家相談会の試行とりまとめ

■ 相談者（他県在住）

- ・ 来福しないで、多くの専門家に相談できたことで高評価であった
- ・ 音声、画像には特に問題はなかった

■ 専門家

- ・ 電話とは異なり、顔を見て話ができたとすることで高評価であった
- ・ 定点カメラで資料を移すことができればよいという意見があった

■ 試行を視察後の協議会メンバーの議論

- ・ 相談毎の専門家の入れ替え時間や、他相談者の相談終了までの待機時間が長かった
Webセミナーのように操作や議事・進行を取りまとめる人がついている必要がある？
- ・ 事前の段取りをしておくことが重要
相談内容をヒアリングし、どのような順番でどのような専門家が対応するのかの調整等
- ・ 資料やGoogle Map等を共有しながら話ができると分かり易い
⇒ディスプレイを2つ用意し、資料を共有するとよい
⇒専門家の後ろにホワイトボードを置き、情報を共有するとよい
- ・ 遠隔相談の場合は、距離を隔てているので、できるだけ会話はマスクを外した方が、印象がよい
⇒話がしやすいようにアクリル板の衝立を用意する等、マスクなしで話ができるよう準備も必要
- ・ 回線状況が会場によって異なるので、事前の接続テストが重要
⇒複数のキャリアの回線を準備しておくことも一考
- ・ 周囲が騒がしいので、マイクは会議用のノイズリダクション付きの方がよい

ITを活用した空き家ツアーの検討

■ ITを活用した空き家ツアーに関する検討

- ・ LIVEの空き家ツアーでは、ツアー開催時間にPCやスマホの前にいる必要（時間の束縛）がある
- ・ 自治体が特に呼び込みたい若年層には、時間の束縛は逆効果
- ・ 若年者に訴求するためには、いつでも手軽に閲覧できる方が効果的

■ 空き家の活用がイメージできる紹介ビデオ制作

- ・ 福島市空き家バンク掲載物件で撮影を実施
- ・ CGを活用しリフォーム後の生活イメージができるビデオを制作



常設相談コーナー・総合情報サイトとの連携の検討

■ サブスクモデルによる常設相談コーナーの検討

- ・ サブスクの市場規模調査
- ・ 既存類似サイト（弁護士ドットコム等）の概要調査
- ・ 類似サービスを踏まえた仕様概要、ビジネスモデル等のとりまとめ

■ 総合情報サイトとの連携

